

新 子どもかがやきプラン アクションプラン 2021

地域と共に創る 新たな学びのスタイル

- ◆平成29年3月に策定した「新 子どもかがやきプラン」に基づき、令和3年度に取り組む施策を示しました。
- ◆インクルーシブ教育システムの構築に向けて、一人一人の教育的ニーズに応じて、地域の多様な学びの場を柔軟に活用できる新たな「学びのスタイル」づくりに取り組みます。
- ◆そのための基盤となる、新たな「学びの場」の整備に取り組みます。



重点施策1 職業教育の充実と就労支援の強化のための体制を整備します

施策内容

- 各地域の状況に応じ高等特別支援学校機能を整備します。
 - 可茂地域は、可茂特別支援学校の校舎増築に合わせて、高等特別支援学校機能を導入します。
 - 東濃地域及び飛騨地域は、規模、整備内容等について、引き続き検討を進めます。
- 特別支援学校高等部の職業教育を充実します。
 - 肢体不自由及び病弱の特別支援学校高等部生徒の「在宅就労」の実現に向けて、企業等と連携しながらモデルケース研究を開始します。

重点施策2 障がいのある児童生徒のニーズに対応した学びの場を整備します

施策内容

- 特別支援学校の学習環境を整備します。
 - 可茂特別支援学校の狭隘化解消に向け、校舎増築工事等に着手します。
 - 東濃特別支援学校の狭隘化解消と教育環境の充実に向け、整備内容等について検討します。
 - 郡上特別支援学校を1校舎体制とするため、用地調査、基本計画に基づき整備を進めます。
 - 障がいの重度・重複化、多様化に伴い、児童生徒が安心安全に学校生活を送れるよう、各特別支援学校の状況に応じて非常電源設備等の整備を進めます。
 - 医療的ケアを必要とする児童生徒の支援体制を整備します。
 - 医療的ケアを必要とする児童生徒が安全に校外学習等に参加できるよう、同行する看護師の配置校を拡大します。
- 【実施校】 11校 岐阜希望が丘特別支援学校、羽島特別支援学校、揖斐特別支援学校、大垣特別支援学校、海津特別支援学校、郡上特別支援学校、関特別支援学校、可茂特別支援学校、飛騨特別支援学校、飛騨特別支援学校高山日赤分校、飛騨吉城特別支援学校
- 医療的ケアを安心安全に実施するために、学校において医療的ケアの対応経験のある看護師や医療的ケア児への対応を熟知した看護師を指導的立場の看護師として配置し、特別支援学校や小学校、中学校、義務教育学校に勤務する看護師に対して相談支援を行います。
- 【配置校】 長良特別支援学校



● ICTを活用した学びの充実を図ります。

- 訪問教育の児童生徒に対してオンラインを活用した学習機会の充実を図ります。
- 長期入院やそれに伴う自宅療養を必要とする高校生の遠隔教育において、学習への主体的な参加や体調に応じた受講ができるようICT機器を導入し、学習支援の充実を図ります。
- 肢体不自由及び病弱の特別支援学校高等部の生徒に対して、オンラインを活用した授業を実施します。

【実施校】 3校 羽島特別支援学校、大垣特別支援学校、恵那特別支援学校

● 聴覚障がいのある児童生徒に対する支援を充実します。

- 飛騨地域において、聴覚障がいのある幼児を対象とした幼児教室を開催し、早期からの聴覚障がい教育によりコミュニケーションの力の育成を図ります。
- 岐阜聾学校をはじめ県立の高等学校や特別支援学校で学ぶ聴覚障がいにかかわる合理的配慮を必要とする児童生徒に対し、音声や文字情報に変換するソフトを活用した学習支援を行います。
- 飛騨地域及び東濃地域において、聴覚障がいのある児童生徒の保護者等を対象とした相談会を実施します。また、専門家を派遣し、医療や療育とのつながりある支援の充実を図ります。

● 発達障がい等のある児童生徒の特性を踏まえた支援を充実します。

- 東濃フロンティア高等学校及び飛騨高山高等学校において「少人数コミュニケーション講座」を開始します。加えて、令和4年度の開講に向けた準備を山県高等学校において開始します。

【実施校】 華陽フロンティア高等学校 通信制（自校、他校）、不破高等学校（自校）、東濃高等学校（自校）、東濃フロンティア高等学校（自校）、飛騨高山高等学校 通信制（自校、他校）

- 発達障がいのある生徒や肢体不自由・病弱等の生徒が在籍する高等学校に対し、学習や生活を支援するための特別支援教育支援員を配置します。

重点施策3 学びの場を支える教員の専門性を向上します



施策内容

● 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校における教員の専門性を高めます。

- 発達障がいのある児童生徒に対する指導力を備えた小学校、中学校の教員をコア・ティーチャーに指名し、コア・ティーチャーによる実践的な通級担当教員の養成研修を実施します。
- 飛騨地域及び東濃地域において、聴覚障がい支援に携わる小学校、中学校、義務教育学校、高等学校の教員を対象とした研修会や各小中学校への訪問を実施し、指導の充実に向けた実践的な助言を継続的に行います。
- 岐阜聾学校を聴覚障がい教育担当教員の育成拠点として、特別支援学校及び小学校、中学校、義務教育学校との計画的な人事交流を行い、専門性のある教員を育成します。
- 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校の教員に対し、高等学校における「少人数コミュニケーション講座」の参観等を取り入れた発達障がい支援について実践的に学ぶ研修を実施します。

● 特別支援学校における教員の専門性を高めます。

- コア・スクールにおける専門領域に基づいて、コア・ティーチャーによる指導助言や研修講師等の取組みを引き続き推進します。

※コア・スクール | 岐阜盲学校(視覚障がい)、岐阜聾学校(聴覚障がい)、長良特別支援学校(病弱)、岐阜希望が丘特別支援学校(肢体不自由)、岐阜清流高等特別支援学校(軽度知的障がい)の5校